

はじめに

校長 浅井 美佐

新学習指導要領において、情報活用能力が学習の基盤となる資質・能力に位置付けられました。また、「各学校において、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整え、これらを適切に活用した学習活動の充実を図る」ことが明記されるとともに、プログラミング教育が必修化されるなど、今後の学習においては、積極的に ICT を活用することとなっています。さらに、令和元年度、国の GIGA スクール構想として、一人一台環境にするという ICT 化に向けた環境整備5か年計画が策定されました。

このような中、令和元年度、本校は、富田林市教育委員会から研究校の委嘱を賜り、「Society5.0 を生き抜く子どもたちの育成 ～ペアで、グループで、みんなで、話し合う力を育てる～」を研究主題として取組みを進めることになりました。富田林市の全小学校に先駆け、タブレット 40 台を導入していただき、情報教育指導計画や情報活用能力を育むカリキュラム(伏山 STEPS)の作成、ICT 機器を活用した授業づくりに全教職員が一丸となって取り組みました。

ところが、令和2年度、新型コロナウイルス感染症の蔓延により、3カ月ほどの学校休校、新しい生活様式での学校教育活動など、日本全体が大変な事態となりました。また、今後の緊急事態対策により、5年かけての国の GIGA スクール構想も大きく前倒しとなったため、富田林市もタブレットの機種変更、1年以内に一人一台環境とするなど、取組みに大きな変更がなされました。もちろん、このような変更は、本校の校内研究にも大きく影響を及ぼし、特に、令和2年12月に予定していた本校の研究発表会が通常のように開催できないことが決まったときには、大変戸惑いを感じました。

このような状況の中で、一体どのように研究を進めたらよいのかと不安でしたが、今年度発足した、全教員によるABCプロジェクトチームが、今の状況でできること、必要なことなどをそれぞれで考え、工夫し研究を前に進めてくれました。研究発表会の開催方法の再検討をはじめ、新型コロナウイルス感染予防対策の新しい生活様式に合わせた授業づくりを考えたり、タブレット内の授業支援ツールの変更に合わせた授業に修正したりするなど、今までの取組みにさまざまな修正を加えていきました。このような作業は、大変ではありましたが、本校の研究をより深めることができ、今の世の中のニーズに合った授業づくりや今までとは違った教育活動を考えることができたのではないかと考えています。

そして、このたび、多くの方のお力添えをいただきながら、令和2年11月25日、12月8日と2回に分けて、3本の代表授業を行い、2年間の研究のあゆみや全教員による授業実践を冊子にまとめることができました。非常に、うれしく思います。

ぜひ、ご一読いただき、忌憚のないご意見ご感想をお聞かせいただけましたら幸いです。

最後になりましたが、本研究に対しましてご指導ご助言をいただきました富田林市教育委員会をはじめ、和歌山大学教授 豊田充崇 先生、大阪産業大学准教授 山田啓次 先生、さらに、富田林市内小学校の先生方、日ごろより子どもたちを支えていただいている地域の皆様方に対しまして、厚くお礼申し上げます。誠にありがとうございました。